

## 第8学年1組 社会科学習指導案

令和2年11月5日(木) 4校時

島根大学教育学部附属義務教育学校 福田大介

### 1 小単元名 幕府の政治の展開

### 2 小単元の目標

- ・近世社会の変動の中で幕府の政治が行き詰っていった原因や背景を、佐久間象山の「海防八策」の是非を問う事例により追究することで幕府の政治の展開を理解する。諸資料から課題の追究や解決に必要な情報を見つけまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- ・近世日本の社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、佐久間象山の「海防八策」の是非を問う事例をもとに多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したりする力を養う。(思考・判断・表現)
- ・近世日本について、社会の変動の中で幕府の政治が行き詰っていった原因や背景を見通しをもって追究、解決しようとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革を基に、諸資料から課題の追究や解決に必要な情報を見つけまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	・近世社会の変化に着目して、幕府の政治が行き詰っていった原因や背景を多面的・多角的に考察し、説明している。	・近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

### 4 学習の基盤

#### (1) 教材について

本小単元は、平成29年度公示の学習指導要領「B(3)(エ)幕府の政治の展開」について学習する内容であり、1800年から1850年ごろを扱う。近世社会とは、政治的・経済的・外交的な政策等の方針が「国内」から「国外」へ移り変わる時期や年代である。戦国時代は、国内を統一することに大名は競い争い、時に利用価値を見出した場合、欧米諸国の文化や技術を利用するようにしていた。しかし、利用価値がなくなると、切り捨てる政策を打ち出している。江戸幕府も開府当時は、その価値観を受け継いでいる。したがって、必然的に全国の大名を支配する政策を次々と打ち出し、外国との関係も利用価値のあるなしで使える仕組み、つまり鎖国政策や対馬藩、琉球藩、松前藩、長崎の出島などを開港していた。つまり、国内統制の一環として政策は打ち出され、江戸幕府を守るために各政策は存在していた。

今回扱う1800年から1850年の時期や年代は、今までの価値とこれからの価値のせめぎ合いであった。欧米諸国の進出により、「国内」から「国外」へ目を向けなければならない時期や年代になっていた。今までの価値観は通じなくなり、新しい価値観を取り入れなければ取り残される時期や年代が到来してきたという時代の特色がある。そして、江戸幕府の信じた旧来の価値観と明治維新を興す諸藩の武士たちが信じた新たな価値観のせめぎ合いを焦点化した事例が佐久間象山の「海防八策」の是非を問う

幕府と諸藩の武士たちのせめぎ合いであると考えた。したがって、近世社会の時代の特色の1つを大観するのに適した時期や年代である。

## (2) 生徒について

本学級は男子15名、女子15名、合計30名で編成されている。歴史について関心や幅広い知識をもつ生徒も多く、授業の中では、その生徒らを中心に互いに議論したり、考えを深めたりしている。一方で、語句は知っているが、それぞれの事象が結び付いていないことから、時代の特色や出来事の背景をつかめていない生徒もいる。また、問われたことに対して、深く考えず反射的に発言してしまう生徒もあり、その生徒らがじっくり考えるような発問や時間設定を心がけている。

家康・家光の時代を学習した際に、「なぜ江戸幕府は260年も続いたのだろうか」を考察した。まとめやふり返りを見ると、「国内を厳しく統制し、幕府より力を持つ者を生み出さない仕組みを作ったから」というような記述がほとんどであった。また、学習する中で新たに生まれた問いを答えさせると、「では、そんな江戸幕府が減じたのはなぜか」という疑問をあげる生徒が多く、生徒の中に生まれたこの問いを軸に学習を進めていきたい。

## (3) 指導にあたって

本小単元では、近世日本の社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、社会の変動の中で幕府の政治が行き詰っていった原因や背景を説明することができるようになることを目指す。近世日本の社会の変化とは、武士中心の社会から商人中心の社会、米中心の社会から貨幣中心の社会へ移り変わっていく時期や年代のことである。また、幕府の政策の変化とは、幕府の健在を中心に政策を考えればよかった時期や年代から、欧米諸国の進出により、欧米諸国の進出を中心に政策を考える時期や年代に移り変わっていくということである。これらに着目することが、歴史的な見方・考え方を活用することである。そのために、「今までの価値観にとらわれすぎて、社会情勢を見誤った」幕府の見誤った政策を象徴するような事例として、「佐久間象山の海防八策の是非を問う幕府」を取り上げた。この事例を通して、政策に対する幕府の見方に視点（見方）をおいて、幕府の見方の移り変わりを考察（考え方）することで、本小単元の目指す知識を獲得できると考えた。そして、幕府の政策に対する見方が、時期や年代で、どのように移り変わっていくのか、アヘン戦争と江戸幕府の対応の関連なども含めて見ていきたい。

また、江戸時代の前期中期まで学習してきた生徒にとって、江戸時代は家康から家光までの強靱な幕府支配体制という概念を、いかに崩し、小単元を貫く課題を導くことができるかが課題を追究する原動力になると考える。そこで、家康や家光の時期や年代と比較しながら、素朴な疑問として「なぜ、このころの幕府はうまくいかなかったのか」をもたせたい。

5 指導と評価の計画

小単元 (エ) 幕府の政治の展開 指導計画

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習活動	評価の観点			評価基準等
		知	思	態	
小 単 元 4	<p><b>単元を貫く問い</b> 「200年続いてきた幕府政治がうまくいかなかったのはなぜだろうか」</p> <p>【ねらい】：幕府政治や経済、外交の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世後半の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解する。</p>				
	<p>第1, 2時 <b>本時の問い</b> なぜ幕府はうまくいかなかったのだろうか</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1800年～1850年までを概観し、事実を捉えることで、「なぜ幕府はうまくいかなかったのか」という問いに対する予想を立てる。</li> <li>・生徒の中に「なぜ幕府はうまくいかなかったのか」という疑問が生じ、次時以降探究していく準備の時間とする。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>●年表や資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取っている。</li> <li>●幕府政治が行き詰った要因について考察し、表現している。</li> </ul>
	<p>第3時 <b>本時の問い</b> なぜ幕府は「海防八策」の3（西洋式の大船を建造する）を取り入れることができなかったのだろうか</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久間象山の人物像について確認し、彼が提唱した「海防八策」を用いながら、幕府の行き詰まりの背景について考察していく。</li> <li>・本時の課題について、なぜ幕府が「海防八策」の3を取り入れることができなかったのかを考察し、このことが幕府の行き詰まりにつながったか自分の意見をワークシートに記入する。</li> </ul>		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>●幕府が「海防八策」の3を取り入れることができなかった理由やそのことと幕府の行き詰まりとのつながりについて考察し、表現している。</li> </ul>
<p>第4時 <b>本時の問い</b> なぜ幕府は「海防八策」の4（津々浦々まで学校を整備して、教育を盛んにする）、5（優秀な者を推挙する法を興す）を取り入れることができなかったのだろうか</p>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題について、なぜ幕府が「海防八策」の4, 5を取り入れるこ</li> </ul>		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>●幕府が「海防八策」の4・5を取り入れることができなかった理由やそのことと幕府</li> </ul>	

<p>とができなかったのかを考察し、このことが幕府の行き詰まりにつながったか自分の意見をワークシートに記入する。</p>			<p>の行き詰まりとのつながりについて考察し、表現している。</p>
<p>第5時 <b>本時の問い</b> 200年続いてきた幕府政治がうまくいかなかったのはなぜだろうか</p>			
<p>・佐久間象山と幕府、それぞれが守りたかったものを比較（「日本全体の安全」⇔「幕府の安全」）し、当時の日本にはどちらの考えが必要か自分の意見をワークシートに記入する。</p> <p>・ここまでの学習を通して考察してきたことを基に、単元を貫く問いである200年続いてきた幕府政治がうまくいかなかった理由について説明する。</p> <p>・小単元の学習を通して学んだことを振り返る。</p>	○	○	<p>○今までの価値観にとらわれすぎて、社会情勢を見誤ったことを背景に幕府が行き詰ったことを理解している。</p> <p>○幕府政治や経済、外交の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、単元を貫く問いについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○1800年から1850年ごろの日本について、関心をもって課題を追究しようとしている。</p>

## 6 本時の学習指導

### (1) 目標

幕府の価値観と佐久間象山の価値観に着目して、比較しながら幕府の意固地な姿勢の裏にある不安を多面的・多角的に幕府の価値観を説明することができる。

### (2) 展開

学習活動と予想される子どもの反応	指導上の留意点（・）と支援（◎）
<p>本時の問い：なぜ幕府は「海防八策」の3（西洋式の大船を建造する）を取り入れることができなかったのだろうか</p> <p>○動画を通して佐久間象山について知る。</p> <p>○「海防八策」を示し、特に3（西洋式の大船を建造する）を、江戸幕府は政策に取り入れるか、取り入れないか。予想しよう。理由も述べよ。</p> <p><b>【取り入れる】</b></p> <p>・アヘン戦争で清が敗北したことを知り、西洋にならって</p>	<p>◎人物や施策において、佐久間象山への関心を高める。また、動画中に出た年表や「海防八策」は別資料を用意する。</p> <p>・「海防八策」を幕府が「取り入れるか」「取り入れないか」を予想しやすくするため、当時としては先進的な考えであることをおさえる。</p> <p>・「取り入れる」「取り入れない」の予想については、予想しやすいように資料や統計より自分の考</p>

軍事力を高める必要がある。

- ・欧米諸国の植民地になることを防ぐことができる。
- ・一度に大量の人やものを運ぶことができる。
- ・難破しにくいので、外国に行け、貿易し、お金をかせぐことができる。
- ・鎖国を止め、4つの窓以外でも貿易や交易できる。しかもたくさんの量でできる。

**【取り入れない】**

- ・武家諸法度は、大名を取り締まるものだから、幕府は大名に大きな船を作らせたくなかった。
- ・幕府よりも大名たちが力をもつことを恐れた。
- ・西洋かぶれのような気がするので武士道に反する。
- ・幕府は幕府自身の安全を守ろうとして禁令を守った。
- ・外国の脅威があったので、対抗しないようにした。

○幕府にとって、取り入れると、どのようないいことがあるのか。資料や統計を根拠に考えてみよう。

- ・上記に記載済み。

○「では、なぜ幕府は「海防八策」の3（西洋式の大船を建造する）を取り入れることができなかったのだろうか」をグループで考え、発表する。

- ・上記に記載済み。

○他の「海防八策」の政策なら幕府は取り入れたのか」を呼びかけて、次時への関心を高める。

○ふりかえりを記入。

えを根拠にする。

・資料や統計を根拠にするために、適切な資料提示ができるように用意しておく。

◎提示するか提示しないかは、生徒の考察が多面的多角的な考察ができていれば提示しない。できるだけ自力で資料を探すように促す。

・より自力で多面的・多角的な考察ができるように、グループ活動を設ける。

・資料や統計を根拠にするために、適切な資料提示ができるように用意しておく。

◎提示するか提示しないかは、生徒の考察が多面的多角的な考察ができていれば提示しない。できるだけ自力で資料を探すように促す。